



北海道バスケットボール協会  
指導者育成専門委員会  
2015/02/02(月)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 163

## 第40回北海道ミニバスケットボール大会 兼

第46回全国ミニバスケットボール大会北海道地区予選会を観戦して

北海道バスケットボール協会  
指導者育成専門委員 若山 茂樹

平成27(2015)年1月8日(木)～11日(日)にかけて、標記の大会が行われました。

男子優勝は、名寄・稚内・留萌代表の「稚内アルピナミニバス」、準優勝は「清田南」、第3位は「函館的場」と「帯広柏」となりました。

特筆されるのは、日本最北の地から、北海道の代表権を獲得したチームの誕生ということでしょう。バスケットボールの様々な刺激は大都市や道央圏が大きいことはやむを得ないことですから、まさに快挙と評していいのではないかと思います。

稚内のチームは、強力なインサイド2枚が、リバウンド、スコアリングと大車輪の活躍で、ゴール下のみではなく、ペイントエリア付近のジャンプシュートもあり、しっかりとした技術も身につけていました。ガードも、試合毎に対応力や自信をつけ、ベンチのサインプレイも、タイミングよく流れを引き寄せる活用でした。

ベスト4には別々の4地区が進出したことも、競技の全道的な広まりを展望させるものとして、今後を引き継ぐものが見られると思います。

女子優勝は、札幌地区の「前田中央」、準優勝は「上野幌東」、第3位は「美しが丘」と「苫小牧澄川」となりました。

前田中央の持ち味は、トランジションとスピードで、リバウンドからのファストブレイクでチームに勢いをつけました。インサイド選手の足の動きやハンドリングがよく、オールラウンドの活躍が光りました。決勝の上野幌東も引いた守りで、前田中央のよさを封じ、点差を詰めたのですが、ギリギリで逃げ切り満場を沸かせる好ゲームでした。

女子は全体として道央圏のチームが凌ぎを削る戦いを展開しました。

大会全体の特徴としては、マンツーマンでがんばるチームが多く、各級のブロックエンデバーによるマンツーマンの大切さや技術が広く浸透していることを感じます。それと同時に、チームの独自の武器、特徴を生かしたチームが勝ち上がってきていました。また、声援や応援で、選手、チームスタッフ、後援会の一体感が会場に満ち溢れ、素晴らしい大会であったことも印象深いものでした。

今回の大会で、道内で有力と話題のあったチームの予選敗退の一因に、ミスに泣いたこと、パスがうまくつながらずリズムがつかめないこと、そのためにプレスにはまってしまうこと、などが見られました。ピボット、ドリブル、ハンドリングなどの基本動作を身につけて、的確な状況判断ができる力を生み出すことを大切にしたいと思いました。

コーディネーショントレーニングやボールハンドリング、ドリブル、パス、シュートなど、基本を一から、ゴールデンエイジの少年たちに育てたい大切な技術であると感じています。

HBA (北海道バスケットボール協会) 指導者育成専門委員会